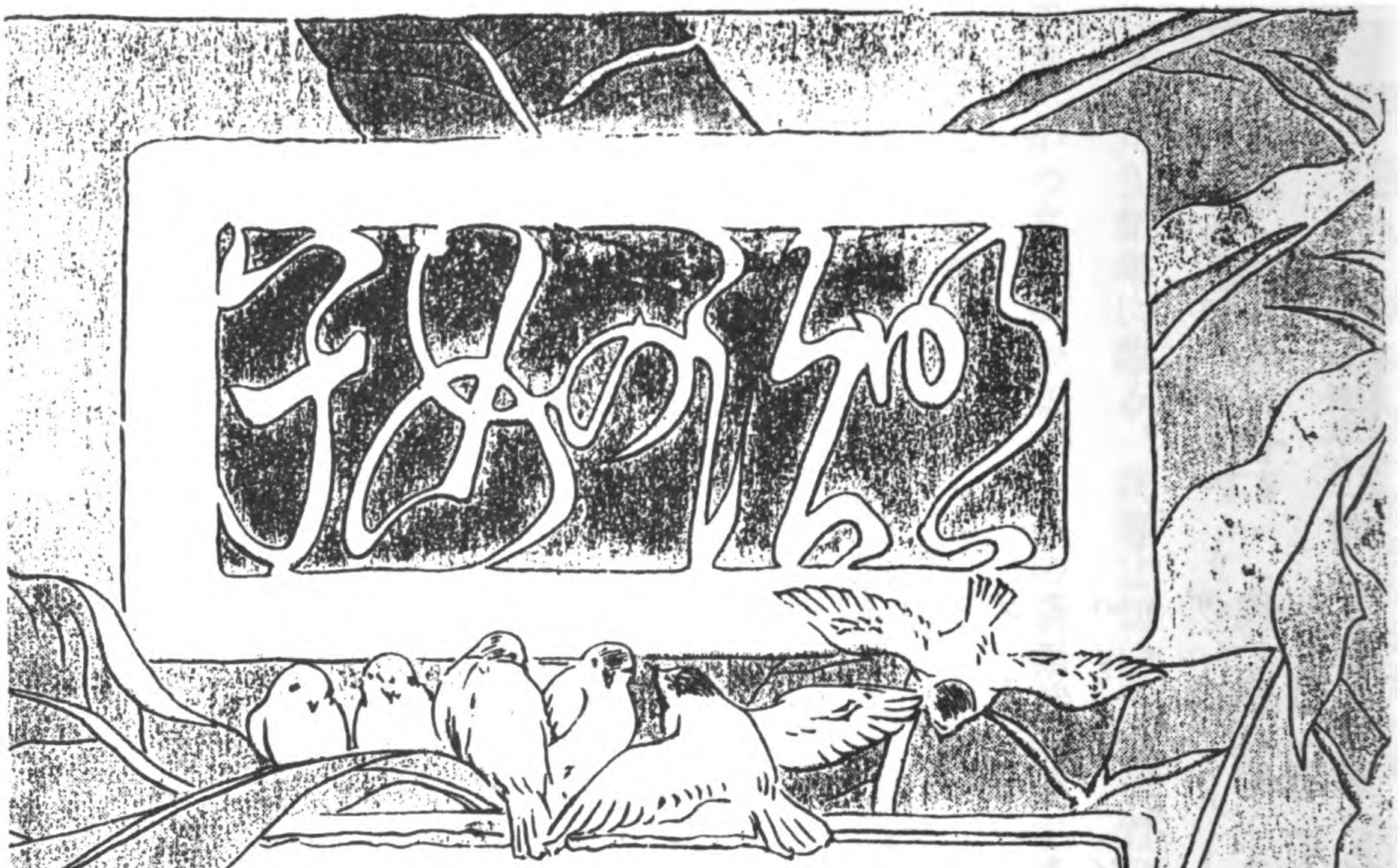


愛をもて眞理を行ひ長ちて凡てのことに首なるキリストに效はしめん爲なり——以弗所、四〇十五

第一巻第八號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子

『明治の女子』は日本基督教女子青年會の創立委員が發行する月刊の聖書研究録なり。

『明治の女子』は一年分十二冊の定價郵税を併せて金五十錢。

發行所は東京市麹町區富士見町五丁目廿二番地。

日本基督教女子青年會の創立委員は

委員長　ホイットマン孃
幹　事　ワイコフ孃
ワージントン孃
ウエスト孃
津田（梅子）孃
花井夫人
ヘルム夫人
フィシャー夫人
平野孃
小崎夫人
エリス孃
ソーパー孃
フェルプス孃
ハミルトン孃
トリストラム孃
ザーフルー孃
佐藤（錦子）孃
河井（道子）孃
萬國基督教女子青年會日本支部幹事　モリソン孃
同上　エー、シー、マグドナルド孃

明治三十七年十二月廿日印刷
明治三十八年一月一日發行
（定價　一冊四錢　郵税五厘）
（一年分（十二冊）郵税共五十錢）

東京市麹町區富士見町五丁目廿二番地
發行兼編輯人　テー、イー、モリソン

東京市京橋區築地二丁目二十番地
印刷人　河本龜之助

東京市京橋區築地二丁目廿一番地
印刷所　株式會社　國光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第一巻第八號　明治三十八年一月一日發行

愛讀諸君に告ぐ

めでたき新年に臨み、我等は切に讀者諸君の清福を祈り、かつ本誌がいよ〳〵その清福を増進するの一助たらんことを祈る。

前號報ずる處の如く、この月を以て本誌改良の端を開くを得たり。從來の聖書日課は暫く掲載を止め、別に印刷せるものを讀者に頒つことゝし、本誌今後の掲載事項は、英語邦語互にその材料を異にすべし。

英語の部に於ては、毎月詩歌、短話及び社交に關する一篇を掲ぐべし。本號所載の『米國の女子大學』は同國最大の女子大學たるスミス大學卒業生の手に成れるものにして、米國女子大學生に關する説話の第一なり。次にはオベリン大學卒業生の起草せる『大學卒業女子の業務』を掲げんとす。

邦語の部に於ては、來月より社説を掲げ、また日本及び他の諸國の青年女子に關する事項、併に聖書研究に伴ふ短篇を載すべし。又家政欄は家政の理想及び實際に關する事項を掲ぐるを目的とし、在東京普連土女學校長セーラ、エリス嬢これが主任者たり、本號既にその講話の第一回を掲げたり。その他又聖書に關する記事を以て、靈的生命の發達を助け、かつその趣味を發揮せんこと期す。本號收むる所のトリストラム嬢の『天啓としての聖書』、及び今井壽道氏の『新進の生命』を讀まるゝ諸君は、各自更にこの驚くべき天啓の書と新しき生命とに關して、一層その智識を求めらるるに至らんことを切望せずんばあらず。

本號に添へて、讀者諸君に送る所の聖書研究録が、成るべく多數の青年女子によりて用ゐ試みられんことを望む。この研究の方法は、米國諸學校に試みられて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大に滿足なる結果を得たり。而してその書は、日本の基督敎靑年會に於てこれが改訂飜譯を終へ、今や正に日本學生のために公刊せらる。想ふに、この書を手にする靑年女子が、他の學課を研究すると同一の精神を以て、毎日その十五分間を割きて、此基督傳を忠實に研究せば、その終結に及んで、この世界最大の書籍たる聖書の心髓ともいふべき、四福音書中の一なる馬可傳に關し、明晰なる智識を得たることを發見するや疑なし。況して信仰と謙遜の念を以て、これが研究に從事するものは、いよ〳〵親しく基督と交るを得て、その生活の上に、神のゆたけきめぐみを享受するに至らん若しまた自らこの書を用ゐて追次研究すること能はざる讀者あらば、おのれの友人にして、諸君の如く聖書研究會に出づるの機會を有せざるものに之を紹介し、前述の利益を示されんことを切に願ふ。

『地とそれに充つるものとは
　皆なエホバのものなり』

これ昨年中に、我等が學び始めたる敎訓の一なりとす我等は神が、我等の求むる處を聽きて、凡て我等に必要なるものを與ふる力とめぐみとに富みたまふを信じ、全く神に身を委ぬる心を與へ給へるを感謝す。

かく神のみ手を經て、『明治の女子』がうけ得たる恩寵に關しては、英語を以てその詳細を次號に報導すべし。

我等は今回日本女子基督敎靑年會が、新に二名の創立委員を加へ得たることを祝せずんばあるべからず。一は佐藤さん子孃にして、近頃女子高等師範學校を卒へ東京に於ける某々の學校に敎師たり。他は河合道子孃にして、孃はブリン、モア大學の卒業生にして米國に留學すること六年、昨秋歸朝して現に津田梅子氏の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子英學塾に教鞭を執らる。

今回我等は、日本女子基督教青年會のために新に渡來する一名の幹事、エー、カロライン、マクドナルド孃を迎ふるを喜ぶものなり。孃は數年加奈陀女子青年會の市部幹事として頗る輿望ありたるもの、かく孃が篤實なる指導を蒙れる加奈陀の青年女子が、今や孃を割愛して日本に送れるは、以て彼等が日本女子に對する情誼の厚きを見るに足る。

聖書研究

第一週　第二日

『先驅者』

『他を導きてこれを基督に從はしむることを勉むるは、これ即ち先驅者の働といふべし。この働こそ、人々の心に基督の臨み給ふべき道を備へ、世をして天國の近きにあるを知らしむるものなれ。我この働のために自ら力を致したること、それ果して幾何なりや。われ他を導きて基督が救主として其人に臨みたまふべき道を備ふるの義務あるものを知らざるか。かのヨハネが力行の意氣、果して我が衷に存するや否や。我は自ら進んで、彼が克己の德に習はんとする處ありや。世に緊急切要の事多しといへども、かく人々の心を拓いて、基督の道を備ふることの如きはあらじ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

祈禱

あゝ、人類の王よ、我をして主のために、ひるみなき證者の聲を揚げしめ給へ。ねがはくば、我をして他を導き、主の臨みたまふべき道を備へしめ給へ。』

（ハワード、エー、ヂョンストン氏の書より譯出）

第二週　第七日

『早天にイエス祈り給へり』

主の一賤婢

主の爲めに忙はしき安息日は遂に暮れたり。朝まだきより日の落る頃まで主の御周圍(そば)に群集せし心の痛める者、身體に病ある者等は皆其の祈願成就して、滿足と感謝を以て或は主の威權に驚きつゝ、或は其大慈悲を喜びつゝ、各々其家路につけり。實に此日は彼等惱める者の大安息日なりき。而して彼等に休息を與へんとして終日食を忘れし主も、一日の勞を休めん爲めに僅かに眠(まどろ)み給ひしが、其睡眠は長からざりき。『昧爽にイエス早く起き、人なき所にゆき其處にて祈禱せり』（可一〇三五）。惡鬼を追出し、熱病を去らしめ、各様の病を患ふるものを醫し、又其教を聽ける者を驚かしむる能力(ちから)ありし主は、何が故に此く祈禱し給ひしや。人の爲め寢食の暇もなく多忙なりし主は、何が故に前日の所勞をも休めず、夜の未だ明けざる頃獨り早く起き、人なき所にて祈り給ひしや、嗚呼主は勞れ給ひしが故に早く起きて祈りしなり。主の靈眼は、見渡す限り人々の心の罪の大患に惱めるを見て痛みたり。主は主の偉大なる救世の大精神が、到底終まで其直弟子にさへ了解せられ得べくもあらぬと（ゲッセマネの苦き杯も主獨り飮み、其最愛の弟子さへ之を共にすること能はざりき）を覺悟し給ひたり。故に主は人間以外の同情者、物質以上の休息所を要求し給へり。主の前途は苦痛の道なり、暗黑なる死蔭の谷なり。而して之

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を照すに一の星光なく、之を和ぐるに一の慰籍なし。故に主は人なき所淋しき沙漠に於て、輝ける神の聖顔を拜し、喜ばしき父の御奬勵を聽かんが爲めに朝早く行き給へり。然れども此くして其聖眼に映せし神の榮光、其聖耳に響きし天の音樂は、優に主の渇ける心を滿足せしめたり。主の勞れたる靈魂は慰められたり、強められたり、再び迷へる可憐の羊を探ねん爲めに起たしめられたり、實に此神との交通こそ主の爲めには眞の食物なりき。然らば我が愛する兄弟よ、友人よ、主の御用を務むる爲めに忙はしき主の軍人等よ、我等も主の模範に習うて朝早く獨り人なき處に神と交はる必要なきか。風波あらき此世の灘に航海する舟人等よ幸福も希望も既に消え失せて寂寞たる沙漠の中にさまよふ旅人等よ、人世の辛酸を嘗め盡せし主の御足跡を慕ひて、朝早く獨り淋しき所に神の御慈愛の聖聲を聽くの必要なきか、此くてぞ啻に過去の心の痛みの療さるゝのみならず、東天に太陽の昇ると共に新らしき希望と勇氣の光は心に滿ち、靜かに神と共に計畫せし今日の仕事に着手するを得ん、願はくば我等は忙はしさの増すと共に祈禱の時間を増し、凡て我等の爲す事を悉く神に献げて主の喜び給ふ一生を送り得んことを。

第三週　第七日

『病あるものは醫者を需む』(馬可二 一七)

ビンフオード夫人

人は不快を感ずるによりて、その身體のいづこにか病氣の發生したることを知る。若しこの不快の感によりて、身體に注意を要すべきことを悟ることなくば、依然これを等閑に附し去りて、遂に回復の望なきまでに至らん。されど痛傷其の他の證候あるがために、我等は醫者を招いて、これが診察を乞ふ。而して醫者はこれが病源を探つて、適當の處方を授くるなり。茲に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

至つて、我等は初めて自己の健康法に意を留むるに至る。

これと等しく、靈魂の病に至りても、これが結果たる罪――短氣、憤怒、驕慢、貪欲、虛僞、嫉妬、猜猾誹謗、惡念、放恣――によりてこれを知る。おのが罪即ち靈魂の病は、人皆なこれを自覺す。然らば我等はこれを閑却し去ることなく、その未だ膏毛に入らざるに先つて、かの大なる醫者、イエス、キリストを招いて、これが診察を乞ひ、よくその病源のいづこに存するかを究めざるべからず。彼曰く、これが病根は心の不潔にありと。かつ彼問うて曰く。『汝は癒されんことを欲するか』と。請ふ、我等はおの〳〵祈りて答へん、『大なる醫者イエスよ、われ主を信ず、われにきよき心を與へたまへ、我に聖靈を滿たして、きよき生涯を送るべき道を學ばしめ給へ』。

第四週　第三日

安息日

ジョージアヌ、ボーカス

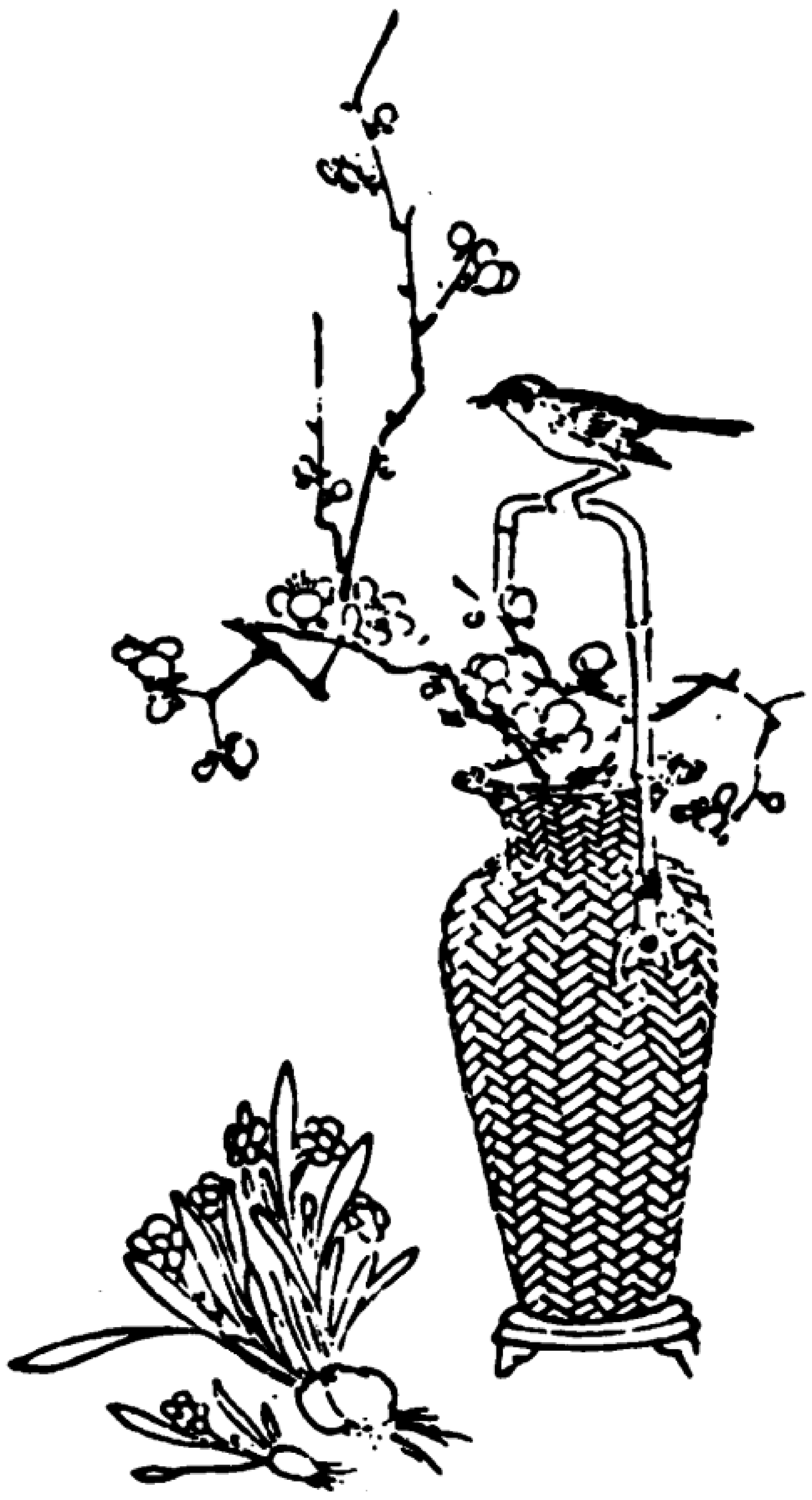
十戒に示されたる律法は悉く、神が偏に人類の利益を念ひて、われらに與へたるものなり、第四戒に於ける『安息日を聖として忘るゝなかれ』の一項の如き、殊にその然るを見る。安息日を守るがために、時に損失を招くが如く見ゆれど、こは唯だ已のおもひなしにて、つかの間のことに過ぎず、その利益の眞にして、かつ大なることは、後日に至つて明かに知らるべし。

安息日を守る第一の利益は身體上の健康を保つにあり。日曜日に休息するものは、勞役を繼續するものに比して、遙に健全に、かつ强壯なるを見る。かゝる人は疲勞を感ずること遲く、病氣に冒さるゝこと甚だ稀に、その壽命に至つても、一層長きが如し。第二の利

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

益は智識上の所得にあり。日曜日に平常の學課を止むる學生は七日を通じて、おのが書齋に蟠居せる學生に比し、遙に清新にして健全なる頭腦を以て、次日その學課を繼續するを得、隨つて安息日を守ることの知能上に及ぼす利益は、汎く世人の認むる處となりて、學校の如きは、この日一般にその授業を休止するなり。

されど安息日を守る利益は、靈魂の上にその最も大なるを見る。一週間の中、この安息日を期して、我等が平生の業務を廢するは、これ單に神に仕ふる機會を得るのみならず、神が我等を見る如く、また自らおのれを省み、紛糾熱鬧の裡に、やゝもすれば陷るべかりしあしき思想、あしき計畫より逃れて、その心情を高潔に保つべき餘裕を得る所以なり、かく聖日に於ていよ〳〵神に近づきゆくに於ては、我等はます〳〵この日を迎ふるを歡喜とするに至るべし。我等は茲に至つて『安息日は人のために設けられたるものにして、人は安息日のために設けられたるものにあらず』と、主の教へたまひし眞意を十分に了解するを得べし。



家庭

家庭の建設

人あり、世にすぐれたる建築家をして家屋の設計を作らしめ、巧妙なる大工を雇うてこれが造營を遂げ、而して室内は熟練なる技師に之を裝飾せしめ、いかに莫大の費用もいとはずとせんに、果して彼はこれを以て家庭を造り得たりと云ふべきか、否かくの如きは、唯だこれ住居すべき家屋を作り得たりといふに過ぎず。

それ家庭の目的は、掬すべき恩愛同情の中心となり家族的生活の樞軸となりてその運用を妙ならしむるにあり。家族をして皆なおのれの家庭を戀ひ慕ひ、久しく外に留ることを欲せざる程ならしむるは、これ誠に家庭の最大要義にあらずや。

家庭はこれに共棲する人々によりて、光明と温情とを與へられざるべからず。家族の風儀はいかやうにもあれ、直ちに化して家庭の風儀となるなり。父たるもの或はその業を勵みて、家族を支持すべき費用を供せば、これを以てその務を果し得たりとせん。また母たるもの或は家事を治め食物を備へ、衣類を調へなば、これを以てその務を終りたりとせん。これ誠に良き家庭に缺ぐ可らざるの要素なり。されどこれを以て足れりとするは大に謬れり。父と母と心を同うして家庭のために計り、家庭をして此世に最も愉快最も幸福なる場所たらしめ、かくて兒女をして『ほんとに、家ほどいゝ所はない』と叫ばしむるが如き狀態に至つて、初めて家庭の建設に成功せりと謂ふを得べし。家族のもの各自一日の務を終へて爐邊に團坐し、悠々自適、以て晝間の苦樂を物語るの時は、これ豈に品性の陶冶せらるゝ機會にあらずや。かゝる間に、父母はその兒女の一生を貫きて感奮せしむべき注意、奬勵を與ふるを得べ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し。かゝる間に兒女はまた、優雅なる言語動作、寛容忍耐の美徳、及び家庭に於ける各自の心情を結合して正しく淸き生活に進み、眞に紳士淑女の名に耻ぢざる行をなさんと相勵ましむる誠の愛などを、父母の感化によりて養ひ出さるゝなり。家庭はかくて父母たるものが、その兒女に巨萬の銀行手形よりも更に貴き遺產を與ふるを得るの場所となるなり。

世の偉人英傑と呼ばるゝもの多くは自白して曰ふ、我をして今日の我たるに至らしめたるものは、之を幼時の家庭敎育に歸せざるべからず、父母の情けをこめし訓誡によりて、その子をして貴き生涯を送らしめんとて、彼等はかくもよろづに留意せるなるを悟れる時は、實に志を立て身を起すの發端なりきと。然り、かくの如くにして、偉人はその家庭に於て、浮世の轉變に處すべき心膽を鍛ひ得たるなり。

ジヨン、ラスキンは幼時の康福を以て、左の三者に歸せり、曰く、平和、從順、信仰。

ラスキンはおのれの思想、言語、行爲の上に平和を保つべき方法を學べり。彼は未だ曾て父母の口より怒聲を聞きしことなく、父母の眼中に怒色を見しことなく、また未だ曾て家政の難澁紊亂を目擊したることなしといふ。

平和に次いで、彼は從順を重しとせり。彼は一擧手一投足の微と雖も、よく父母の命を守りて悖らざること、恰も船のその舵に從ふが如くなりき。最後に彼は信仰の妙味を悟れり。云々の事を爲さば云々の罰あるべしと威赫せられて、父母その必罰を曲げし事なく、彼の耳に入る處のものは、一として眞實ならざるものなかりき。

善良なる家庭に於ては、幼者は長者の言に從ひて敢て背く處なく、また自己の量見によつて身を處し得る年齡に達したる者と雖も、決して我意を張ることなく

よく父母同胞の意見を叩きて、これに從ふを常とす。

凡そ正確に時間を守るてふことは、秩序ある家庭に最も緊要の條件なりとす。家庭内の約束を違へず、各自の本務を行ふに速かなる事は、皆な人を思ふの親切心に基づく。わづかなる注意にて能く間に合はせ得べき事に、空しく他人を待たしむるなどは、思慮なき利己の所爲といはざるべからず。

家族相互に忍容することは、また一個の善徳にして家庭の生活をして幸福ならしむ。親しき間に禮讓を守る事は、しば〳〵家庭内の風波を防ぐに足る。よく治まれる家庭に於ては、家族相互に他の感情を害することなし。家庭の本領を完うするは、各自よく次の聖語を體現するにあり。

『汝等彼此の勞を任へ、かくしてキリストの律法を全うすべし』

我等は怜悧なる少女の口より、往々左の言を聞くことあり、曰く、

『私は衣物なんか、決して自分で縫ひません、學校へ行つてる間に、母がちやんと拵へてをいてくれます』

或はまた、

『私は料理法なんか存じません、だつて母は忙しくつてそんな事を私に敎へてなんかゐられませんから。で大概は自分でいたします。そして私に仕事なんかさせませんで、母は本當に親切ぢやありませんか』

か丶る少女が、常に何の心配もなく、また何の責任もなく、學校の課程を終へて、進んでおのが家庭を造り出すさまを見るに、いかにも快活にして、その顏にも愛嬌のみ湛ふるが如きも、幾ばくならずして家事のわきまへなきに困じ、昔日の英氣は頓に消失するの時機に會するを免れず。之に反して母の責任を分ちてこれを助くる娘を有する家庭は、實に幸福なり　いふべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し、またおのが娘を養育して、後日僕婢に向つて事を命ずることさへ能くし難きものとなすことなく、家政に通じて、よく整理し得るものとなすをおのれの任と心得るが如き母を有する家庭は、實に幸福なりといふべし。

寄書

天啓としての聖書、これが統一及び調和

ケー、エー、トリストラム

第一　聖書が他の一切の書物と異なる所以

聖書に記載せる事項は前後四千年の長きに渉り、蒙昧の域より進んで、最高文明の境に及ぶ。この世界に於ける最も顯著にして、かつ最も信憑すべき歴史、最も雄大なる詩歌、最も崇高なる道徳、すべて本書の中に包括せらる。中に收むる所の書卷六十六部の多きに達し、記者また諸種の階級より出で、帝王、牧人、農夫、祭司、戰士、政治家、醫師の如き、皆なおのれの代表者を聖書の中に發見するを得。されど聖書は、單

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に書籍の蒐集にあらずして、一人の著者と、一貫せる目的を有する完璧といふを得べし。かの世界に冠絶せる希臘文學の如きを選んで、其の中より六十六巻を修輯すとも、唯だ雜然たる蒐錄の觀を免れず。されど聖書は純乎たる一個の書籍をなせり。而して聖書の終始連絡を保つや、豈唯だその目的及び教訓の統一のみに止まらんや。かゝる統一は、諸種の人々によりて、著はされたる書籍の聚成、若くば雜誌記事の蒐集に於ても、尙ほかつこれを發見することを得べし。これ統一ありて而も未だ一書たるを得ざるものにあらずや。之に反して眞に連續せる一書の一章を綴るには、これが前後の關係を了知するの要あり、必ずや一人の頭腦より出でざるべからず。聖書の著者たる神は、當初より一貫せる精神を以て本書を作れり。故によく各書の連絡を保ちて有機的統一あり、獨りその思想の相類せるのみならず、前後よく契合して歩々完璧に進むを見る。聖書は神の啓示にして、我等をして神の何たるを知らしむ、これ我等をしてその墮落せる性情を挽回して、高潔清福の域に進み、以て神の榮光を顯揚するに至らしめんがためなり。

人類をして神の存在を知らしむるは、これすべてにまして最も切要の事なるが故に、神の啓示は先づこれより始めらる（創世記三〇一四。希伯來書十一〇六）。

次にイスラエル人が埃及より救ひいださるゝに當り、神に對して柔順を守るの必要なることを教へ、かの荒野を徨ふに臨みては、日毎に糧食と保護とを與へまた彼等が神を拜するに、則るべき律法、誡律を授く（出埃及記より申命記まで。詩篇七十八）。かくて神は正義と慈悲、眞實と恩愛、權威と神聖といふが如く、序を逐うておのれの性格を啓示せり。斯く神はその性格、及びおのれと人類との關係を示すによりて、一層

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

深く罪の性質、救主の必要を感せしめ、人をして基督の降世を待ち望むに至らしむ。基督の降世に關する約束は先づエバに告げられ、彼が降世の期近づくと共にいよ／＼明かにかつ完くなるに至れり。もし舊約聖書を蕾に譬ふれば、新約聖書は以て滿開の花になぞらふべし。花は蕾の中に藏れ、蕾は發育して花となる。蕾漸く發育して色づけば、いつしか卒然爛熳たる花を見るに至る。これと等しく、神のおのれに關する啓示は舊約聖書の中に漸次發達して、遂に世界の救主たる基督の出現に及べり（馬拉基書三〇一―四。路加傳二）。

次に四人の證者ありて、基督の驚くべき生涯、死去及び復活を詳述す、これに次いでは、使徒行傳ありて基督の開創せる初代教會の歴史を説く。かのペンテコステの日、聖靈百二十人の群衆に降れる時に端を發したる教會は（使徒行傳一〇十三―十五。二〇一―四）相繼いて世界の各所に傳播し、遂に今日の盛況を見るに至れり。次に使徒の各書に於て、一層高遠なる教訓の述べらるゝを見る。これらの教訓は。基督の死し、甦り、天に昇りたる後、使徒が聖靈の指導によりて初めて世に示すことを得たるものなり（以賽亞五十七〇十五。使徒行傳二〇廿八―卅九。哥林多前書三〇十六）。最後に默示錄ありて、かの舊約聖書にある聖徒が、基督の降世を待ちのぞみし如く、我等は基督の再臨を期待すべきを我等に教ふ。

第二　新舊兩約の一致

かくの如く聖書は一個の連續的完體ともいふべきものなるが、尚ほ舊約、新約兩書を比較するに、その組織の相似たる實に左表の如し。

舊約
- 一律法。舊契約の授與。創世記より申命記まで。
- 二歴史。舊契約の適用。約書亞記より以士帖書まで。
- 三詩歌。舊契約の實驗。約百記より傳道書まで。
- 四預言。將來の豫望。以賽亞書より馬拉基書まで。

新約
- 一福音。新契約の授與。馬太傳より約翰傳まで。
- 二歴史。新契約の適用。使徒行傳。
- 三書翰。新契約の實驗。羅馬書より猶太書まで。
- 四豫言。未來の希望。默示錄。

聖書は舊新約いづれも、かく四部に區別するを得べしと雖も、各部の題目は精密にその部分にのみ限らるるにあらずして、他部に於ても、また多少同種の事項を發見するを得べし。例へば舊約書に於て、歴史、舊契約に關する敎訓及び豫言の幾分が、各部の中に散在するが如く、新約書に於ても、歴史、新契約に關する敎訓、及び豫言の幾分が、また各部の中に散在するを見る。斯くの如く、諸種の題目が聖書を一貫して、到る處に點綴せらるゝは、偶ま以て本書が一個の完體たるを證するに足るべきのみ。

又舊約書の全體が漸次發展して、救主の降世及び人類の救贖に達する如く、(加拉太四〇四、五)、新約書に於ても、その降世及び救贖の結果が、漸次その發展を遂ぐるを見る。是に於て、我等は四福音書が、神の人類に對する啓示たる聖書の中心となりて、頗る重要の地位を占むるを悟るべし。舊約書の流れは、すべてこの降世と救贖に向つて注ぎ、新約書の流れも亦、すべてこの二大事實より出づ。故に我等が福音書の研究に從事するは、これ即ち聖書の精髓を獲得する所以なり。

我等若し基督に似たる健全なる信者として、その名に背かざらんと欲せば、これらの書を研究して之を咀嚼し、以て我等の心靈を修養せざるべからず。基督の經歴言行は、皆なこの福音書に錄せらるゝを以て、細心誠意、基督を見、基督に聽く處あらば、力ある祈禱をなし(約翰傳十五〇七)、基督に似たるものとなりて(哥林多後書三〇十八)、神と人とを愛するの愛、我等の心に充溢するに至らん(翰約第一書四〇十九、廿一)。

聖書中にある各書の順序と、その內容の概略に習熟することを勉むべし。これが全部を閲讀することは固

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

より困難なりと雖も、未だ創世記を通讀せざるものは、先づこれより始め、而して同時に他書にも眼を通じて其中に如何なる事柄の記しありやを窺ふべし。而して前段に述べたるが如く、舊新約書の共に四部より成立するその顯著なる點を知らんと欲せば、次の個所を讀むを以て捷徑なりとす。

舊約書。（前の番號と對照せよ）

一。出埃及記二十章。

二。尼希米亞記八章、十三章。

三。詩篇五十一篇、百十六篇。

四。以賽亞書五十三章。

新約書。（前の番號と對照せよ）

一。馬太傳五章。約翰傳廿章、廿一章。

二。使徒行傳二章、十六章。

三。哥林多前書十三章。以弗所書三章。

四。默示錄廿二章。

我等は聖書を研究するの深きに從ひ、おのれの智力の全部を擧げて、これが了解に勉めざるべからざることゝ、かくして費したる勞苦、時間、考察は、またおのれに酬ゐ來ることを發見す。されどかく智力を以て聖書を理解せんとせば、遂には失敗するを免れず。これ蓋し聖書は聖靈によりて啓示せられたる者にして（彼得前書一〇廿一）、小兒と雖もまたよくその幾分を理解し得るに拘らず、また如何なる學者と雖も、單におのれの力を以てする時は、到底その深遠なる意義を解すること能はず、必ずやこれを記したる聖靈の指導に依らざる可からざればなり（哥林多前書二〇十四）。而してこの必要なる指導は、すべて聖靈を求むる人々に、彼が與へんとて備ふる所のものなり、それ斯くの如くなるを以て、我等はこれを研究するに當り、世上一般の書籍を讀む場合と異りて、著者自身の説明を聞くことを得べし。而して單に是に止まらず、聖靈は尙ほ進

んで我等の心に住し、我等をして唯聖書の意義を了解せしむるに止らず、更にこれによりて我等の心靈を養ひ、以て日々發達する强健なる信者たらしむ。聖書は研究の度を進むるに從つて、趣味いよ〳〵滋きを加へかつこれを珍重するの情ます〳〵厚さを加ふべし。而して遂にはダビデが歌ひし如く、みことばは蜜の甘きにまされり、また人のおほいなる掠物を得たる如くに汝のみことばをよろこぶといふに至らん（詩篇百十九○百三、百六十二）。聖書を讀むものは、日々これを開くに先ち、聖靈のたすけを得んことを神に求むべし。神は路加傳十一章十三節に約束し給へる如く、我等の祈禱に應へ給ふべし。

新進の生命

眞堂學人

弘法大師四十七文字の歌に『わが世たれかつねならむ』と云へるも、强ち悲觀的に人生を解釋する宗教思想に於てのみ眞理たるにあらず。人間苟も心あらば此生涯の常なきを悟らざるを得ず。而も無常必ずしも悲むべきにあらず、變遷は世界の大法にして替謝は天地の常則なり。唯だ變遷に二樣あり替謝に二種あるのみ。而して人間は此二種の變遷の一に從ひ、或は向上し或は下降せざるべからず。『我身ばかりはもとの身にして』と詩人の歌へるは其心持に於て然るのみ、實際一日は一日だけの變化あり、一年は一年の移動ありて、何人も往時の我れ其まゝたること能はず。

凡て變移して古びゆくものは朽つべし、新に成り行くものは向上して止む時なし。古び行くも無常なり、新まり行くも亦た無常なり。同じく無常なりと雖も日に月に新まりて止むなくんば、人生の光榮と威嚴と其の多望の前途眞に樂しむに足る、斯てこそ人生は眞に送り行く價値あるものなれ。イスラエルの偉人其天來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の神感に觸れ、此新進無窮の生力を宣べて曰く

エホバはとこしへの神、地のはての創造者にして倦み給ふことなく又疲れたまふことなし……疲れたる者には力をあたへ、勢力(いきほい)なき者には强きを增加へ給ふ。年壯き者も疲れて倦み、壯んなる者も衰へおとろふ。然はあれどエホバを俟望む者は新なる力をえん。又鷲の如く翼をはりてのぼらん、走れどもつかれず、歩めども倦ざるべし。(賽四十章)

之れ變遷なり、而も向上の變遷なり。此の新進の勢力生命を得て新年の劈頭に一年の生涯を始むるは快の又快なるものと云ふべし。

然りと雖も之れ人間心靈の上に於てのみ、其人格品性の上に於てのみ。キリストの老使徒ペテロが女性に勸めたる言葉を見よ。『爾曹の裝飾は髮を辮み金を掛けまた衣を着るが如き外面の裝飾にあらず。たゞ心のうちの隱れたる人、即ち壞ることなき柔和恬靜なる靈を以て飾とすべし』(彼前三〇五)吁、心のうちの隱れたる人!之れこそ向上の勢力に養はれ、新進の生命に强められ得べきものなれ。『花の色はうつりにけりな』と歎じたる者は、下降して古び行く方面の無常を經驗して當然に悲歎すべき人生あるを知れり。心のうちの隱れたる人即ち天來の生命に觸れ、向上の祈禱を呼吸としてキリストの精神を內に分與され、其の人格品性を理想として自己が更生の靈をして新進向上せしめんと勉むる者には、落花黃葉も亦た趣味津々たるものあるべし。『キリストを學ぶ』(弗四〇廿)とは實に此の樂しき生命の發育を意味す。蓋しキリストを學ぶ知識は活る知識にして、其活る人格を識ることいよ〳〵高ければ、其知識はます〳〵强健に其人の中に生長すべし。『永生とは唯獨の眞の神なる爾と其遣しゝイエスキリストを識るこれなり』。而して此の如き知識は固より腦力其物の能く達し得べき所にあらず。『爾曹の心の靈を

新にし、神に象りて眞理の義と潔にて造れる新人を衣るべし』(弗四〇廿三)『此の新人は愈新になり、人を造りし者の像に從ひて知識に至るなり』(西三〇十)と敎へられしを思ふべし。

然れども單に是の如く空想するも亦た何の益かあらん。人生一刻も停止せざれば、此眞理の實踐に於ても亦た躊躇する所あるべからず。使徒パウロが羅馬の信徒に勸めたる言葉は即ち此實踐の大原則を示すものと云ふべし。『爾曹其身を神の意に適ふ聖き活る祭物として神に献げよ。これ當然の祭なり。又この世に効ふ勿れ爾曹神の全く且つ善にして悅ぶべき旨を知らんが爲に心を化て新にせよ』。若し下降して古びゆく方面の世に効ふを止めて、我が心靈を一新することなくば、新年の新衣新裝に外面の華美を全うするあるも亦た敢て喜ぶべき所なし。新鮮なる心靈と共に肉體を活きまた聖き祭物として献ぐることは、實に新年に最も相應したる感謝の祭なり。而も之れまた詩的に爲し得るものにあらず。感情に於てのみ遂行し得べきことにあらず。詩仙ブラウニングの詞に曰く

人は舊より新に、虛より實に、誤より眞に、曾て善と見し所より現により善しと證明されたる所に移らざるべからず。人間若し然せずんば如何にしてか進歩あらん

然れば新年はキリスト敎徒の爲に、希望の時なるが如く又た嚴肅に自省すべき期なり。我は果して我が在るべき如くに、古び行くものを脫して新進の生命に强からんと努むるか。我は我が空想の信仰より現實の信仰に生活せんと決心せるか。我は我が過去の誤謬又罪過を離れ、眞理と淸潔の品性を修養することに忠實なるか。我は我が過去に於てよりも一層實際に一層確實に善に進まんとして勵みつゝあるか。我は此新年の劈頭に此精神を以て祈り且つ行ふか。此の如き反省を以

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て自ら新進向上の生涯に入らんと欲する者と、之をいよ〳〵勵行せんとする者は福なり。

此幸福と希望は固より十字架の苦楚を經ずしては達すべからず。唯だ此苦鬪力行は榮光の月桂冠を新進の人格に載かしむる道なるが故に、此の一年三百六十五日に一日は一日の勞あり苦あるも躊躇すべきにあらず、朝々夜々進みて一日は一日より新にならんことを期すべし。今年の人は去年の人よりも老ひ、明年また今年よりも衰ふべし。此肉の『外なる人』は衰ふとも『内ある人』若し日々に新鮮ならば、此一年暮れ行きて一年の古さを知る時、人は徒爲に之を送り來らざりしことを感謝し得べし。斯て人生は眞に活き又樂むに足る價値ありと謂べし。プロクターの詩に曰く

進歩の秘義を正確に　學びて知れよ　光輝ある
變遷の名を誤りて　衰朽となよび歎きそ…………
これらは廻る小車よ　懶き人の靈魂を　載て運びて、果てしなく　愛と美妙の大極に　斷えず近き進むなり

また以て新進の新生命を鼓吹すべき思想とすべし。

前號に豫告せる丹羽清次郎氏の寄稿は、締切の時日までに到着せず、之を掲載し得ざるは甚だ遺憾とする所也

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

was made when Simmons College was opened in Boston in 1901, with courses in domestic science, librarian methods, secretarial training, and other lines of self-help, besides the usual academic studies. The large attendance this college has had from the start has at once justified its existence.

Aside, however, from the branches of study taught in the American college, the ideal of the education it offers is the development of character. Higher knowledge that does not work out into higher planes of spiritual living, that does not carry with it the obligation and the call to service of one's fellowmen, is ethically barren. Charcter first, culture second-this is the meaning of the words of the Apostle Peter, chosen as its motto by the largest woman's college in America: "To virtue, knowledge."

Charlotte B. Deforest.

Of all the gifts of the woman's college to the student and to the American Nation, who can select one, and say of it that it is the greatest? I have asked many college girls, and no fewer college women, "What is the best and most permanent gift of the college for women?"
According to their own sentiments, they selected from among thc countless benefits of their collegiate career things most precious to themselves. Perhaps Alice Freeman Palmer, beloved of all college women in America, irrespective of their several colleges, and revered by all lovers of true women even beyond the boundaries of the United States-perhaps Mrs. Palmer saw most clearly and deeply, and has voiced most truly, that gift of the woman's college which is greatest.

She said once: "I have forgotten my chemistry, and my classical philology cannot bear examination; but all around the world there are men and women at work, my intimates of college days, who have made the wide earth a friendly place to me."

Every woman from a college will hardly fail to agree that these words, quite without addition or modification express her chief reason for the love she bears her college; and also explain the large function exercised by that college in the organic life of the American Nation."

Elizabeth McCracken in *The Outlook*.

179

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ages, literature, history, sciences mathematics, and philosophy. Thus while a university seldom, if ever, stands without a college, a college may exist without a university. To take two well-known institutions as examples: Amherst, from which graduated Joseph Neesima, the founder of the Dōshisha College in Kyōto, is a college, having no special schools; Yale, which has been honored by many brilliant Japanese as its students, is a university, having schools of law, medicine, divinity, and so forth. There are in America no universties for women alone, although there are many purely women's colleges. Women who wish to study a profession may do so at a coëducational university, or at special schools like the Woman's Medical College of Pennsylvania in Philadelphia, and the New England Conservatory of Music in Boston.

The colleges of America fall into two broad classes, public and private. The first are generally connected with State universities, founded and carried on by the governments of their respective states and furnishing free tuition to pupils from within their borders; as, for example, the University of Michigan, at Ann Arbor. The second are founded by denominational bodies, or by individuals with private funds; as, Wesleyan College in Middletown, Connecticut, of the Methodist denomination, and Leland Stanford Jr. University in california, founded by Mrs. Leland Stanford in memory of her son.

Of coëducational colleges as such, Oberlin is the oldest, founded in 1883. The first distinctly woman's college was Vassar, founded in 1861. Mt. Holyoke as an institution antedates Vassar by twenty-five years, but it was not until 1888 that it raised its course of study to college grade. There is now, however, a kind of college that stands midway, between the independent woman's college and the coëducational college. This is the "annex", as it is popularly called. The best-known example is that of Radcliffe College, which is in the same town as Harvard University and has many of the same professors. Another well-known example is Barnard College in New York City, associated with Columbia University.

The studies in women's colleges are generally planned so as to give their students the same broad opportunities enjoyed in men's colleges. Thus, although domestic science might very appropriately be a branch in American colleges, as in the Joshi Dai Gakkō in Tōkyō, still it is not generally included in the curriculum. For special courses in cooking, dress-making, sanitation, etc., specialistic schools are usually sought, like Drexel Institute in Philadelphia and Pratt Institute in Brooklyn. However, an innovation

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

WOMEN'S COLLEGES IN AMERICA.

When the first woman's college in America was started forty-odd years ago, the public had many misgivings about higher education for women. It was thought that only book-worms would attend, and that the result would be "blue-stockings", which means, the chief characteristic of the graduates would be a dry intellectuality. But the public has learned better. The college woman of to-day is not only a student; she is also a homemaker, a worker for the uplifting and enriching of society.

Of course, many women who go to college now-a-days do so as a prepartion for supporting themselves; many an intended teacher, if she cannot have both a college course and a normal school trainng, prefers the former as giving a broader foundation for knowledge. But there are many who go to college without the thought of having to use their education as a means of livelihood; who go to college for the culture and the development which it can give, and afterward, instead of going into professional or salaried work, return to their homes to use in social and domestic relations what they have acquired at college. And far from being like the "Sweet Girl Graduates" that Gilbert sang of, who were ambitious to "extract sunbeams from cucumbers" and teach "pigs how to fly," they have proved themselves in general eminently practical and efficient in executive lines.

A word now about the history of the woman's college in America. At the beginning of the last century there were a few private girls' schools called academies, which were, I presume, about the grade of the first two or three years of the Japanese Kōtō Jo Gakkō. But it is interesting to note that the first step toward a college education for women came through men's colleges. Sometimes teachers in such colleges admitted women students into their class-rooms without formally recognizing them as members of the institution. This was the beginning of the coëducational system in America, by which is meant in general the education of young men and young women together, although in practice the word is usually applied only to the higher institutions of learning.

For clearness' sake, I should say that in America a university is understood to include a college. It includes also various special schools, as: a school of law, a school of medicine, a school of theology, and sometimes a school of music, or of art, or both. A college, on the contrary, does not specialize to any great degree, but gives its students a general course, including langu-

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

bitterly over its black, jagged, gaping wound. But the Little Swan poured its waters through the cleft, and carried down deep black mould, and once more the birds carried seeds and strewed them in the canyon. And after a long time the rough rocks were decked out with soft mosses and trailing vines, and all the nooks were hung with clematis and columbine, and great elms lifted their huge tops high up into the sunlight, and down about their feet clustered the low cedars and balsams, and everywhere the violets and wind-flower and maiden-hair grew and bloomed, till the canyon became the Master's place for rest and peace and joy."

The quaint tale was ended, and Gwen lay quiet for some moments, then said gently:

"Yes! The canyon flowers are much the best. Tell me what it means."

Then The Pilot read to her: "The fruits—I'll read 'flowers'—of the Spirit are love, joy, peace, long-suffering, gentleness, goodness, faith, meekness, self-control, and some of these grow only in the canyon."

"Which are the canyon flowers?" asked Gwen softly, and The Pilot answered:

"Gentleness, meekness, self-control; but though the others, love, joy, peace, bloom in the open, yet never with so rich a bloom and so sweet a perfume as in the canyon."

For a long time Gwen lay quite still, and then said wistfully, while her lip trembled:

"There are no flowers in my canyon, but only ragged rocks."

"Some day they will bloom, Gwen dear; He will find them, and we, too, shall see them."

Then he said good-by and took me away. He had done his work that day."

I love you, good Old Year!
Not that your days unclouded came and went,
Not that the light was sweet,
But that the darkness drew us close to Christ
In following his feet.
Hallowed by fires of pain, God's proof of love,
Pure, infinite, and free,
You helped us gauge the cost and weigh the worth
Of human sympathy.

—M. K. A. Stone.

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

"THE CANYON FLOWERS."

"The Sky Pilot" by Ralph Connor, from which this story is taken, is a tale of life among the ranchmen in the Foothills of the Canadian Rocky Mountains. "Sky Pilot" is the name by which these rough settlers characterize the enthusiastic young missionary, the hero of the story, who comes with simple faith and undaunted love to live among them. One of his greatest problems is Gwen, the only child of the oldest of the ranchmen, who, under her father's indulgence and without a mother's influence, has grown up in the wild life of the prairie, selfwilled, untaught, and knowing no control. In a brave but reckless effort to rescue a herder from a bunch of mad cattle, she has brilliantly succeeded but not without an accident to herself which will never let her walk again. Gwen's rebellion at the doctor's verdict is pitiful in its rage and helplessness. Her longing for the old freedom of the prairie, the growing weariness of her pain, her resentment towards God for allowing it, become daily more intolerable, and nothing avails to soothe her until one glorious autumn afternoon the Pilot finds for her the why of it all in this exquisite story of her own loved canyon.

"At first there were no canyons, but only the broad, open prairie. One day the Master of the Prairie, walking out over his great lawns, where were only grasses, asked the Prairie, 'Where are your flowers?' and the Prairie said, 'Master, I have no seeds.' Then he spoke to the birds, and they carried seeds of every kind of flower and strewed them far and wide, and soon the Prairie bloomed with crocuses and roses and buffalo beans and the yellow crowfoot and the wild sunflowers and the red lilies all the summer long. Then the Master came and was well pleased; but he missed the flowers he loved best of all, and he said to the Prairie: 'Where are the clematis and the columbine, the sweet violets and wind flowers, and all the ferns and flowering shrubs?' And again he spoke to the birds, and again they carried all the seeds and strewed them far and wide. But, again, when the Master came, he could not find the flowers he loved best of all, and he said; 'Where are those, my sweetest flowers?' and the Prairie cried sorrowfully: 'Oh, Master, I cannot keep the flowers, for the winds sweep fiercely, and the sun beats upon my breast, and they wither up and fly away.' Then the Master spoke to the lightning, and with one swift blow the lightning cleft the Prairie to the heart. And the Prairie rocked and groaned in agony, and for many a day moaned

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. I January, 1905 No. 8

RING OUT WILD BELLS.

(FROM TENNYSON'S "IN MEMORIAM.")

I

Ring out, wild bells, to the wild sky,
The flying cloud, the frosty light:
The year is dying in the night;
Ring out, wild bells, and let him die.

II

Ring out the old, ring in the new,
Ring, happy bells, across the snow:
The year is going, let him go;
Ring out the false, ring in the true.

III

Ring out the grief that saps the mind,
For those that here we see no more;
Ring out the feud of rich and poor,
Ring in redress to all mankind.

IV

Ring out a slowly dying cause,
And ancient forms of party strife;
Ring in the nobler modes of life,
With sweeter manners, purer laws.

V

Ring out the want, the care, the sin,
The faithless coldness of the times;
Ring out, ring out my mournful rhymes,
But ring the fuller minstrel in.

VI

Ring out false pride in place and blood,
The civic slander and the spite;
Ring in the love of truth and right.
Ring in the common love of good.

VII

Ring out old shapes of foul disease;
Ring out the narrowing lust of gold;
Ring out the thousand wars of old,
Ring in the thousand years of peace.

VIII

Ring in the valiant hand and free,
The larger heart, the kindlier hand;
Ring out the darkness of the land,
Ring in the Christ that is to be.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. I January 1905 No. 8

The "Young Women of Japan" is a Bible Study Monthly for young women published by the Promoting Committee of the Young Women's Christian Association in Japan Price 50 sen a year. Four sen, gorin a copy. Address 22 Fujimicho, Gochome, Kojimachi, Tokyo.

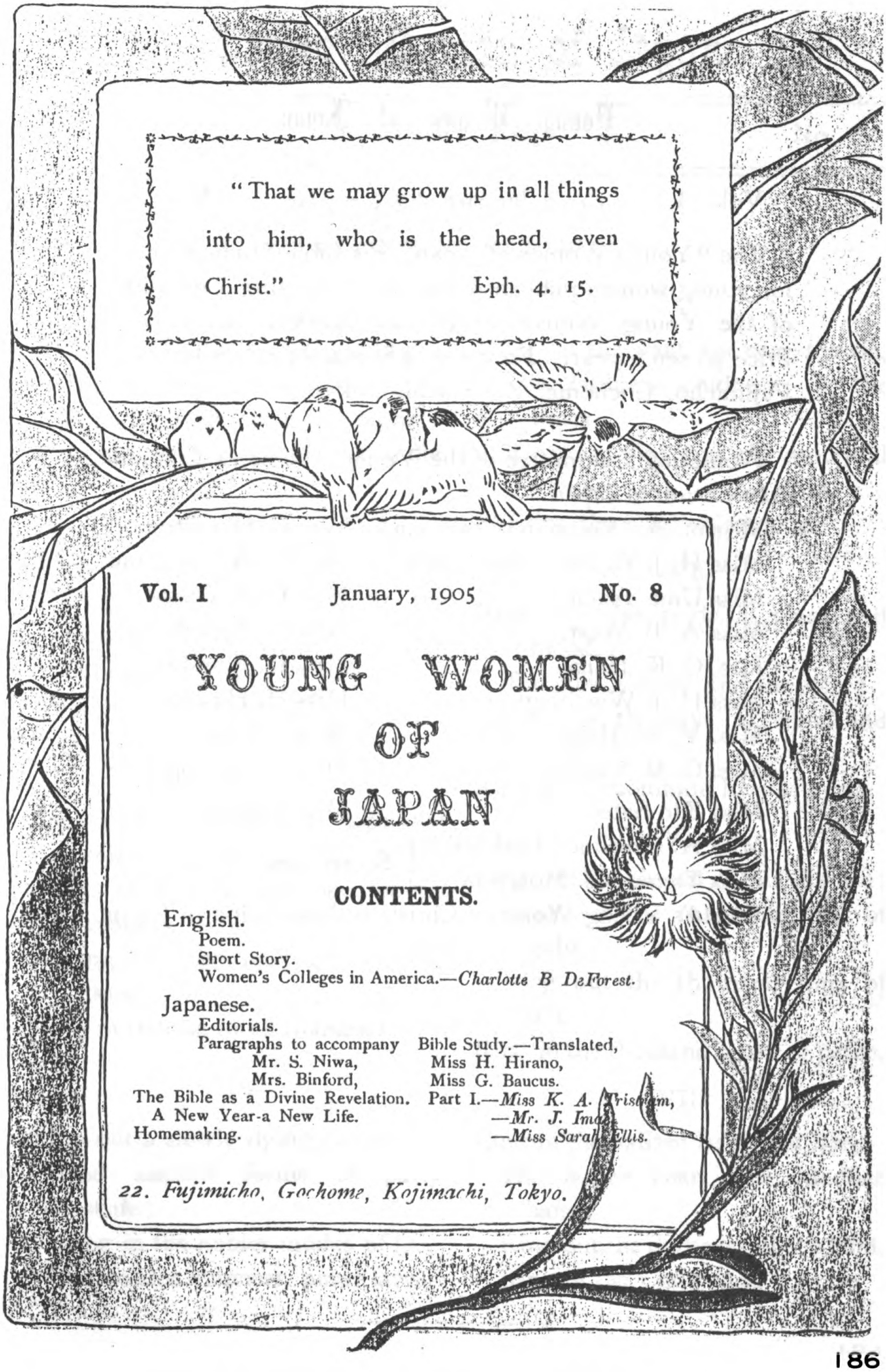
Promoting Committee of the Young Women's Christian Association in Japan.

Miss M. A. Whitman, Chairman.
Miss H. J. Wyckoff, Secretary.
Miss Ume Tsuda.
Miss A. B. West.
Mrs. G. K. Hanai.
Miss H. J. Worthington.
Mrs. V. W. Helm.
Mrs. G. M. Fisher.
Miss Kin Sato.
Miss L. Hamilton.
Miss K. A. Tristram.
Mrs. G. S. Phelps.
Miss L. Zurfluh.
Mrs. H. Kozaki.
Miss H. Hirano.
Miss S. Ellis.
Miss E. M. Soper.
Miss Kawai.

Miss A. Caroline Macdonald, Miss Theresa E. Morrison } Secretaries of the World's Young Women's Christian Association in Japan.

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可



"That we may grow up in all things into him, who is the head, even Christ." Eph. 4. 15.

Vol. I January, 1905 **No. 8**

YOUNG WOMEN OF JAPAN

CONTENTS.

English.
- Poem.
- Short Story.
- Women's Colleges in America.—*Charlotte B DeForest.*

Japanese.
- Editorials.
- Paragraphs to accompany Bible Study.—Translated,
  - Mr. S. Niwa, Miss H. Hirano,
  - Mrs. Binford, Miss G. Baucus.

The Bible as a Divine Revelation. Part I.—*Miss K. A. Tristram,*
A New Year-a New Life. —*Mr. J. Imai.*
Homemaking. —*Miss Sarah Ellis.*

22. Fujimicho, Gochome, Kojimachi, Tokyo.